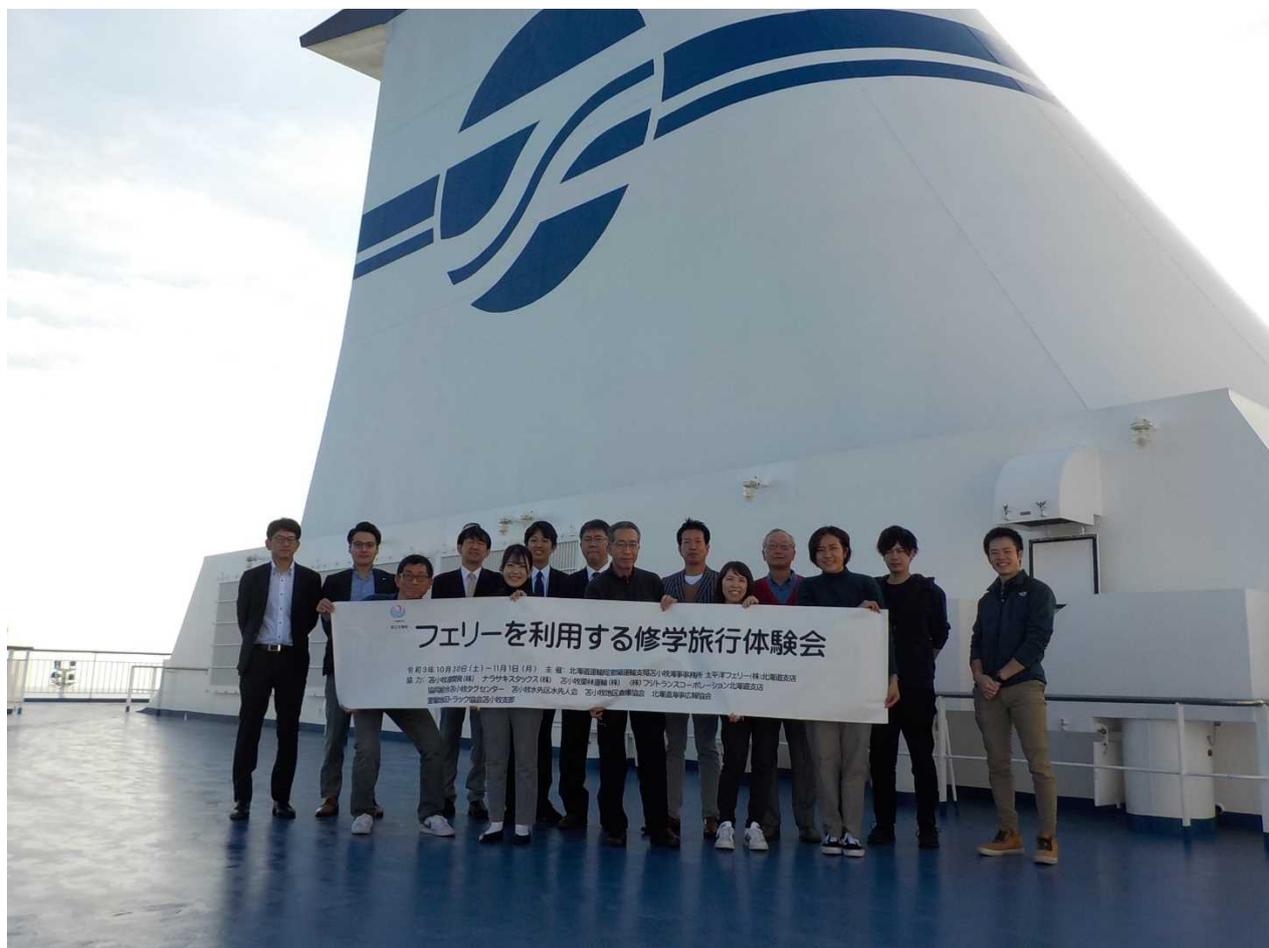


令和3年度 旅客フェリー活性化事業 事業報告書



「フェリーを利用する修学旅行」のご提案

～フェリーの移動時間等を活用し海事教育等に役立つ学習プログラムを提供～

令和4年2月
国土交通省
北海道運輸局苫小牧海事事務所

目 次

ページ数

I 事業目的	・・・	2
II 取組概要	・・・	3
III スケジュール	・・・	4
IV 取組経過	・・・	5
V プログラム	・・・	7
VI 開催結果	・・・	9
VII 今後の取組	・・・	32
VIII まとめ	・・・	33
(参考資料)		
10月15日付けプレスリリース資料	・・・	34
参加注意事項	・・・	38
新型コロナウイルス感染防止対策	・・・	39

I 事業目的

北海道と本州を結ぶ中長距離フェリーの旅客利用者数は、1994年をピークに減少し、苫小牧港を発着するフェリーの旅客利用者数は、2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響により激減しています。

また、海事・物流産業においては、私たちの豊かな暮らしとともに経済・産業の成長を支える重要な役割を担っていますが、人口減少、少子高齢化の影響等により、これら産業で働く人材の確保・育成が極めて重要な課題となっています。

他方、学校教育現場においては、海洋基本法（2007年制定）により海洋に関する教育の推進が要請され、新しい学習指導要領（2017年3月改訂）においては、地域間の結びつきの学びとして物流の理解等が求められたことに加えて、海洋・海事に関する記載が充実されています。

このような中、国土交通省では海運・造船・海洋開発の各分野について、海洋立国日本の要となる海事人材の確保・育成を強力に推進し、北海道運輸局では、若年層を対象とした海事・物流産業に対する理解醸成活動を積極的に行っています。

こうした背景を踏まえ、北海道運輸局苫小牧海事事務所では、教育旅行の特に中学校の修学旅行誘致を取組の柱に据えて、北海道内の教育関係者と旅行会社を招請し、旅客フェリー事業の活性化と海事・物流産業の役割や重要性の理解醸成を図る取組を融合した「フェリーを利用する修学旅行体験会」を開催しました。

なお、開催にあたっては、参加者において開催2週間前から検温実施等の体調管理を行い、利用する交通機関と宿泊施設における新型コロナウイルス感染防止対策の把握に努める等、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い開催しています。

II 取組概要（フェリーを利用する修学旅行体験会の開催）

日 時：2021年10月30日（土）～11月1日（月）（2泊3日）

参加者：8名（北海道内の中学校教員5名、旅行会社3名）

行程：苫小牧～宮城県、岩手県

目的：① フェリーを利用する修学旅行の実用性のPR
② 海事・物流産業に関する学習プログラム内容等の検証
③ フェリーを利用する修学旅行を販売する視点からの検証

主な内容

<1日目>

- ① 施設見学等
RORO船、一般貨物船、物流倉庫、フェリー荷役の見学と港湾荷役機械等体験乗車など
- ② 特別授業（講話）
苫小牧水先区水先人 黒川 秋彦 氏
太平洋フェリー「きたかみ」船長 飯野 善雄 氏
- ③ 仕事の話（移動バス車内）
タグボート業務
通関士業務
海運代理店業務

<2日目>

- ① 特別授業（講話）
「海運とフェリーの役割」 大阪府立大学名誉教授 池田 良穂 氏
- ② 東日本大震災被災地訪問
荒浜小学校
東日本大震災津波伝承館
※女川町訪問は中止
- ③ 自然・歴史・文化学習
宮城県松島見学

<3日目>

- ① 自然・歴史・文化学習
岩手県平泉見学

主 催：国土交通省北海道運輸局苫小牧海事事務所
太平洋フェリー株式会社北海道支店

協 力：協同組合苫小牧タグセンター、苫小牧栗林運輸(株)、苫小牧港開発(株)
苫小牧地区倉庫協会、苫小牧水先区水先人会、ナラサキスタックス(株)
(株)フジトランスコーポレーション北海道支店、北海道海事広報協会、
(一社)室蘭地区トラック協会苫小牧支部（五十音順）

Ⅲ スケジュール

TOTAL SCHEDULE

2021年10月30日(土)

}

2021年11月 1日(月)

「フェリーを利用する修学旅行体験会」

3 DAYS SCHEDULE

国土交通省北海道運輸局苫小牧海事事務所

	月日(曜)	日 程
1日目	10月30日 (土)	<p>オリエンテーション(苫小牧西港FT) = RORO船内見学(自動車運搬船) = 一般貨物船見学(鋼材船) =</p> <p>物流倉庫見学 = 昼食 = 内航コンテナ見学(トラック輸送見学) = 特別授業(講話) =</p> <p>荷役機械体験乗車 = 水先人のお話 =</p> <p>「船酔い防止」のお話(大阪府立大学名誉教授 池田 良穂氏) = フェリー荷役見学 = 夕食(船内レストラン) (19:00出港) ~  ~</p> <p>※上記のほか、移動バス車内において「海の仕事(タグボート業務、通関士業務)」の講話を実施</p>
2日目	10月31日 (日)	<p>~  ~ 仙台港(10:00着) = 特別授業(講話)(大阪府立大学名誉教授 池田 良穂氏) = 昼食 = 荒浜小学校(震災遺構見学) =</p> <p>= 松島(瑞巖寺見学) = 女川町視察(震災被災地訪問) = ホテル着(19:15着)</p>
3日目	11月 1日 (月)	<p>ホテル発(8:00発) = 平泉見学(中尊寺)(毛越寺)(昼食) = 仙台空港(17:05発) ~  ~</p> <p>新千歳空港(18:15着)(解散) = 苫小牧西港FT(19:00着)(解散)</p>

IV 取組経過

1. 協力依頼等

(1) 関係機関に対する協力依頼と提案

事業の実施に当たっては、苫小牧市に対する協力依頼を行った。

また、フェリー関係者及び施設見学等の受入先となる海事・物流団体及び事業者に対する事業提案を行い、全機関より快諾を得ることができた。

訪問先は次のとおり。

【協力依頼】

令和2年12月 苫小牧市（産業経済部）に対する事前説明

【事業提案】

令和3年1月 苫小牧港フェリー利用促進連絡会

（一社）室蘭地区トラック協会苫小牧支部

令和3年2月 内航海運事業者、協同組合苫小牧タグセンター

令和3年3月 苫小牧水先区水先人会

令和3年7月 苫小牧地区倉庫協会、倉庫事業者各社、港湾運送事業者各社

(2) 教育関係者、旅行会社に対する協力依頼

「フェリーを利用する修学旅行体験会」は、北海道内の教育関係者と旅行会社を招請し実施するため、各地域の教育委員会、中学校及び札幌市内の旅行会社を訪問し参加協力依頼を行った。

取組内容については、いずれの教育関係者、旅行会社ともに好評であった。

他方で、教育関係者にあつては新型コロナウイルス禍により、予定する年間行事が後倒しとなっている関係等から体験会への参加は困難とする機関が多数あった。

訪問先は次のとおり。

【教育関係者】

令和3年3月 苫小牧市教育委員会、厚真町教育委員会

令和3年5月 苫小牧市中学校長会事務局（苫小牧市立和光中学校）

令和3年6月 平取町教育委員会、むかわ町教育委員会

令和3年7月 登別市教育委員会、白老町教育委員会、安平町教育委員会
由仁町教育委員会、長沼町教育委員会、登別市立幌別中学校

令和3年8月 池田町教育委員会、本別町教育委員会、土幌町教育委員会
更別村教育委員会、大樹町教育委員会、芽室町教育委員会
清水町教育委員会、壮瞥町教育委員会、壮瞥町立壮瞥中学校

【旅行会社等】

令和3年3月 (株)近畿日本ツーリスト北海道

令和3年7月 (一社)全国旅行業協会北海道支部、北海道旅行業協同組合

令和3年8月 (株)JTB北海道事業部、東武トップツアーズ(株)札幌支店
(株)日本旅行北海道

(3) プレス

令和3年10月15日 令和3年度 第3回北海道運輸局長記者会見で話題提供
北海道運輸局と苫小牧海事事務所合同のプレスリリース
実施。

報道内容は次のとおり。

【テレビ局】

11月9日 TVH北海道（5時ナビで放送）

【新聞各紙】

- 10月25日 北海道新聞電子版
観光経済新聞
- 10月27日 日本海事新聞
- 10月28日 北海道新聞（朝刊 全道版）
時事通信社
- 10月31日 北海道新聞（朝刊 地方版）
- 11月11日 苫小牧民報
- 11月12日 物流ニッポン

【北海道新聞 朝刊 全道版】



【北海道新聞 朝刊 地方版】



【苫小牧民報】



【物流ニッポン】

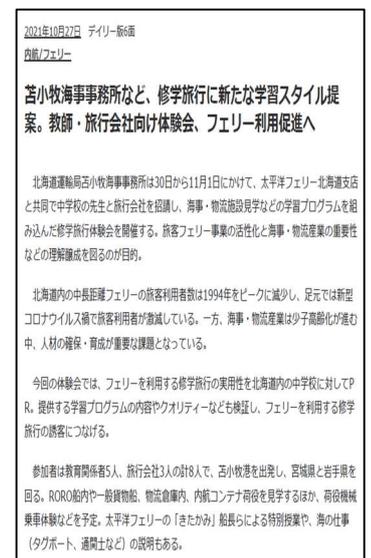
令和3年11月12日（物流ニッポン）



【観光経済新聞】



【日本海事新聞】



V プログラム

1. 海事・物流施設見学等

【10月30日（1日目）】

四方を海で囲まれている日本にとって、生活必需品やエネルギー資源、工業原料などのほとんどは船によって運ばれ、私たちの暮らしは海上輸送によって支えられています。

また、トラック等による陸上貨物輸送は、ドア・ツー・ドア輸送のほか、港湾、空港、貨物駅からの集配輸送等、トラック以外の輸送機関の補完的機能を果たし国内貨物輸送の中心的な役割を担っています。

こうした海上・陸上輸送をはじめとする海事・物流産業は、一般市民の目に触れる機会が少ないこともあって、私たちの豊かな暮らしと共に経済・産業の成長を支える重要なインフラであることが十分に認識されていないと考えられることから、1日目のプログラムでは、生徒たちがこれらの産業を知るきっかけ作りを主な目的として、RORO船（自動車運搬船）、一般貨物船（鋼材運搬船）、フェリーの荷役、物流倉庫等の見学と港湾荷役機械による荷役のデモンストレーション、港湾荷役機械と大型貨物自動車（トレーラー）の体験乗車を行いました。

また、特別授業として、水先人、フェリー船長の講話と移動するバス車内で海事・物流産業に関わる企業の社員による仕事紹介（タグボート、通関士、海運代理店業務）を実施しました。



【自動車運搬船の見学】



【鋼材を運ぶ船の見学】



【物流倉庫の見学】



【荷役機械のデモ】



【海上コンテナの見学】



【大型貨物自動車の体験乗車】



【水先人による講話】



【フェリー船長による講話】



【移動バス車内で仕事紹介】

2. 東日本大震災被災地訪問等

【10月31日（2日目）、11月1日（3日目）】

2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波によって海の危険性が改めて認識され、四方を海で囲まれた日本の地理的特性から沿岸部に人口が集中することは避けがたく、将来においても再び津波の被害リスクに直面することが予見されます。

そのような中、学校教育現場においては新しい学習指導要領により、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解することが求められています。

このようなことから、2日目のプログラムでは、東日本大震災の津波と教訓に加え、この津波を乗り越えて前へと進んでいく被災地の姿を伝える、東日本大震災津波伝承館と震災遺構として保存・整備された荒浜小学校を訪問し、「いのち」の尊さ、人への思いやり、支え合うことの大切さを学んできました。

このほか2日目に宮城県松島、3日目には岩手県平泉を訪問し、自然、文化、歴史にも触れてきました。

なお、2日目に予定していた女川町の震災被災地訪問は、当日の進行時間の関係からキャンセルとしました。



【荒浜小学校訪問】



【東日本大震災津波伝承館訪問】



【瑞巖寺（松島）訪問】

3. その他（大阪府立大学 池田 良穂 名誉教授による特別授業）

【講話：（海運とフェリーの役割、船酔いについて）】

船による輸送は、海上貿易の99.6%を担い日本の貿易に不可欠な輸送手段となっており、船による輸送をはじめとする海事産業は、私たちの生活や経済活動を支える重要な役割を担っています。

こうした海事産業が果たす役割の理解を深めるため、池田教授による講話では、「船の優位性」や人流・物流の両面から「なぜ船か」等の視点で、フェリーによる人の移動のメリットやモーダルシフト等の環境に対するメリット等を織り交ぜて構成していただきました。

また、教育関係者等に対して事前に行った協力依頼の場面では、「船酔い」に対する懸念が数多く指摘されたことから、船酔いのメカニズムと対処方法等についてもお話をいただきました。

VI 開催結果

1. アンケート結果

参加者を対象に体験会後にアンケート調査を行った。

アンケートの主な回答は次のとおり。

1. 今回の体験会に期待したものについて教えてください。(記述)

【教育関係者】

- ・フェリーによる修学旅行の実現可能性（乗り心地を含む）を探る。
- ・海事物流関係施設見学や講話など社会見学としての可能性を探る。
- ・移動手段としてのフェリー（船内生活を含む）体験。
- ・震災地の見学や東北での見学先のバリエーションなど修学旅行全体プランの検討。
- ・RORO船やコンテナヤード見学、荷役機械乗車体験など普段入れない場所の見学・体験。
- ・他業種の方とのネットワークづくり。

【旅行会社】

- ・現在、東北への修旅はJR利用が主流のためフェリー利用のメリットを知りたい。
- ・夜出発のフェリーで出発までの時間をどうするのか具体的に体験したい。
- ・フェリーとはどのようなものなのか。
- ・フェリー（設備面等も含め）を修学旅行で活用することが実際に出来るのか。
- ・旅行AGTとして、フェリー利用を学校に提案することが出来るか。

【考察】

体験会は、修学旅行におけるフェリー利用の付加価値として、フェリーの移動時間等を活用して海事・物流産業に関する学びのプログラムを提供し、フェリーを利用する修学旅行の実用性のPRを目的の一つとして実施した。

参加者の体験会に対する期待が、「フェリーによる修学旅行の実現可能性（乗り心地を含む）を探る」「移動手段としてのフェリー（船内生活を含む）体験」「夜出発のフェリーで出発までの時間をどうするのか具体的に体験したい」「フェリー（設備面等も含め）を修学旅行で活用することが実際に出来るのか」等の回答であったことから、体験会実施の意図が伝わっていたと推察できる。

2. 実際に体験してみて、その期待は満足されましたか。(1つ選択)

【教育関係者】

- | | |
|------------|----|
| ・非常に満足 | 3人 |
| ・やや満足 | 0人 |
| ・やや物足りなかった | 0人 |
| ・物足りなかった | 0人 |
| ・無回答 | 2人 |

理由（非常に満足）

- ・期待していたことへの理解がかなり進んだため。また、当初あまり想定していなかったキャリア教育やSDGsの視点からのアプローチも多く期待以上の内容でした。
- ・運輸産業（運搬、物流、輸送）の実地研修が十分であった。
- ・特別授業の講話は修学旅行生（中3生）でも興味や関心が高まる内容であった。

- ・社会科の勉強と関連して学べたり、様々な職業について知ることができたり、生徒が興味を持つような内容が多くあったので良かったです。

【旅行会社】

- ・非常に満足 2人
- ・やや満足 1人
- ・やや物足りなかった 0人
- ・物足りなかった 0人

理由（非常に満足、やや満足）

- ・今修学旅行でSDGsとの絡みが期待されているが、うまく結び付ければ良い提案になるのではという期待感も持てた。
- ・フェリーと言えば「雑魚寝」「プライベートの確保無し」というイメージだったが、全くそんなことはなく、非日常空間を楽しむことが出来た。

【考察】

体験会への期待に対する満足度は、アンケートの全てで「やや満足」「非常に満足」とされており、「特別授業の講話は修学旅行生(中3生)でも興味や関心が高まる内容であった。」
「社会科の勉強と関連して学べたり、様々な職業について知ることができたり、生徒が興味を持つような内容が多くあったので良かったです。」等の回答から、プログラムは参加者の期待に応える十分な内容であったと考えられる。

また、「キャリア教育やSDGsの視点からのアプローチも多く期待以上の内容でした。」との回答もあり、プログラムがキャリア教育やSDGsの視点で捉えられることが把握できた。

今後は教育関係者の学びに対するニーズの把握等を行い、フェリーを利用する修学旅行誘致のセールスポイントとなる多彩なプログラムを準備することが肝要と考えられる。

3. 今年（昨年又は一昨年）修学旅行で利用した交通機関を教えてください。（複数選択）

【教育関係者のみ】

- ・JR 1人
- ・飛行機 4人
- ・バス 5人
- ・フェリー 0人

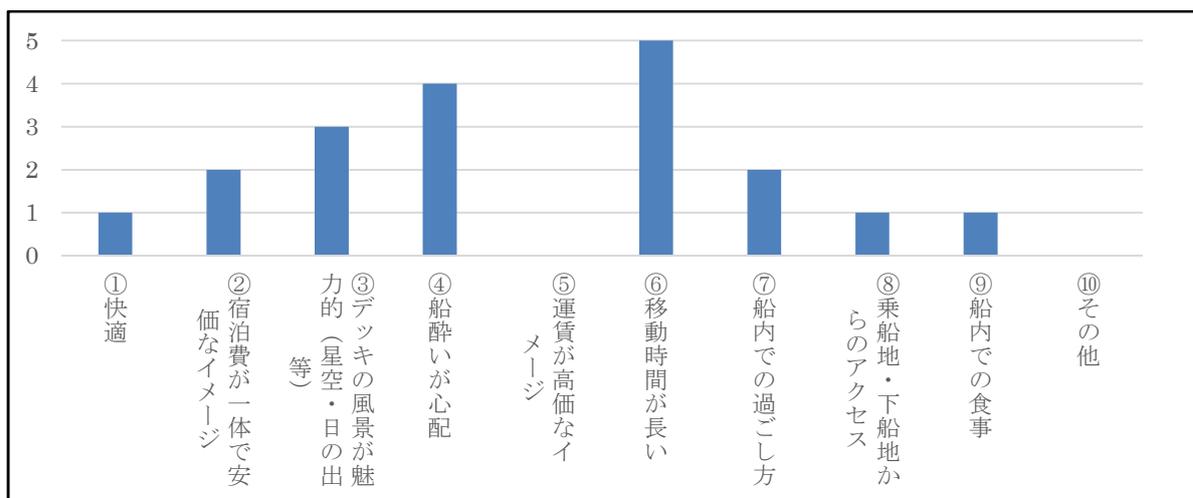
3. 今までフェリーを利用した修学旅行を取り扱ったことがありますか。（1つ選択）

【旅行会社のみ】

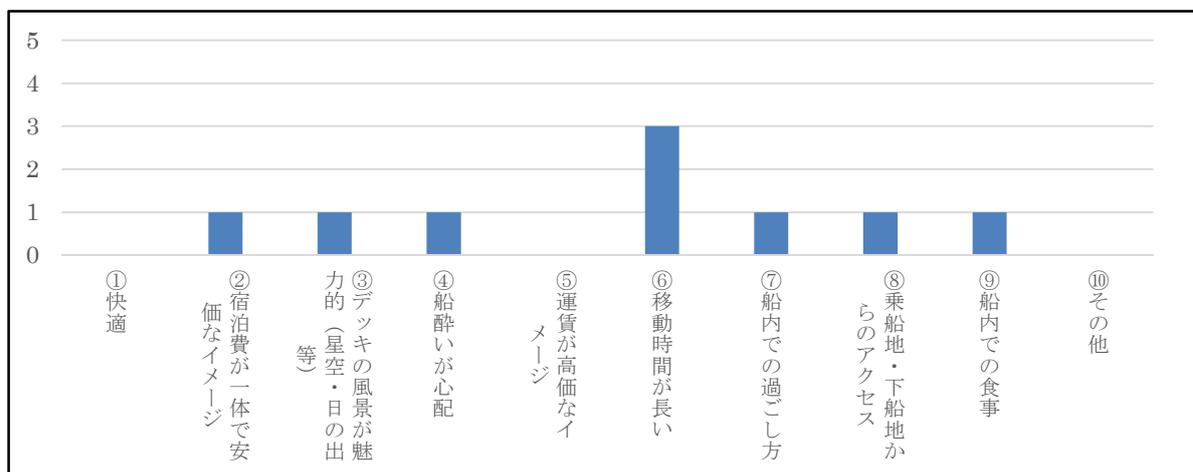
- ・取り扱ったことがある 1人
- ・取り扱ったことがない 2人

4. 体験会参加前におけるフェリーを利用した旅の印象（JR・飛行機と比較）について教えて下さい。（複数選択）

【教育関係者】



【旅行会社】



5. 上記印象について、今回の体験会参加後に変わったところを教えてください。（記述）

【教育関係者】

- ・ 船酔いについて、思いのほか揺れは少ないと感じたが、乗り慣れない乗り物なのでふわふわと浮いている感覚を持つ生徒はそれなりにいると思われる。
- ・ 船酔いに関しては、想像していたほどの船酔いはなく、夜もゆっくり眠ることができました。
- ・ 想像していたより揺れが少なく、船酔いせずに済んだ。
- ・ 寝ている間に目的地に着いているという点では、効率の良い移動手段になると感じた。
- ・ 移動時間について、夜間の移動となるので逆にそこを利用することはできると感じた。
- ・ 移動のみを考えると時間的にフェリーは不利だが、移動手段と宿泊施設を兼ねているメリットがある。また、修学旅行では移動前や移動中に運輸産業や特別授業を企画することにより視野が広がると感じた。
- ・ 個室やレストラン（食事を含む）ロビーなど、とても快適に過ごすことができた。

【旅行会社】

- ・ 池田先生の講和により、船酔い対策を事前に聞いたので安心材料となった。
- ・ 学校に対しても事前学習の一部として船酔い対策講義を行い、生徒の船酔いに対するメ

ンタル的な部分の問題を事前に解消するとより良い。

- ・船内も修学旅行生で利用すると雑魚寝のようなイメージだったが宿泊施設として十分な機能を備えていた。
- ・今回乗船した苫小牧夜便の場合、行程上支障もなくむしろ寝ている間に移動が出来るという部分はメリットであると感じた。

【考察】

体験会参加以前のフェリーを利用した旅の印象は、移動時間の長さや船酔いに対する懸念が多くあったが、アンケートでは、「寝ている間に目的地に着いているという点では、効率の良い移動手段になると感じた。」「今回乗船した苫小牧夜便の場合、行程上支障もなくむしろ寝ている間に移動が出来るという部分はメリットであると感じた。」「移動時間について、夜間の移動となるので逆にそこを利用することはできると感じた。」等、むしろ移動時間は積極的に評価されている。

このことから、船旅イメージの改善には、教育関係者をはじめ広く一般市民に向けた船旅の機会を提供する等の継続したアプローチが必要と考えられる。

船酔いについては、乗り慣れない乗り物のため違和感をもつ生徒がいるとの意見がある一方、参加者自身は、「想像していたほどの船酔いはなく、夜もゆっくり眠ることができました。」「想像していたより揺れが少なく、船酔いせずに済んだ。」等の回答があった。

また、「池田先生の講和により、船酔い対策を事前に聞いたので安心材料となった。」との意見があることから、学校関係者等に対する事前周知の必要性が認められた。

船内居住空間での快適性についても高い満足感が得られていることから、他交通機関と比較した際のフェリーの優位性が改めて認識されることともなった。

6. 体験会のスケジュール（コマの多さ、時間等）について教えて下さい。（1つ選択）

【教育関係者】

- ・短い 1人
- ・やや短い 0人
- ・ちょうどいい 0人
- ・やや長い 4人
- ・長い 0人

【旅行会社】

- ・短い 0人
- ・やや短い 0人
- ・ちょうどいい 3人
- ・やや長い 0人
- ・長い 0人

【考察】

1日目のスケジュールは、多くのプログラムを体験していただきたい思いから詰め込み過ぎになっていた。実際の修学旅行誘致の際は、学校関係者等の意向確認を行い実施する必要がある。

7. 以下の各プログラムについて、修学旅行への組み込みの可能性を「①あり・②なし」のどちらかを選択し、「②なし」を選択した場合、その理由を教えてください。
また、学習効果を高める要望事項があれば教えてください。

《RORO船・一般貨物船・フェリー荷役見学》

【教育関係者】

- ① あり 4人
- ② なし 1人

理由：普段は絶対に見ることのできない世界を見せていただき、とても勉強になりましたが、修学旅行でというよりは社会科見学で訪問させていただくのがいいのかなと思いました。

要望事項：人数的に多い場合の対応が大丈夫なのか？危険な箇所に大人を立たせるなどの配慮が必要。

屋外、特に音のある場所で説明をするには、ハンドマイクなどを用いてきちんと伝えることが絶対条件。今回は全体を通して、聞き取れないところもありました。説明が聞こえていないと子どもは集中力が持ちません。

【旅行会社】

- ① あり 3人
- ② なし 0人

《物流倉庫見学》

【教育関係者】

- ① あり 2人
- ② なし 3人

理由：手狭なので、人数的に厳しい。

鋼材の保管場所の見学は資料や映像による研修で補えると感じた。

修学旅行でというよりは社会科見学で訪問させていただくのがいいのかなと思いました。

要望事項：ここだけではありませんが、社会見学等では説明者のスキルや経験が大切だと思います。

日帰りの見学者を多く受け入れるなど、受け入れ側の準備を整える必要があるのでは？

複数の資材等の倉庫を見学できるとなお良いのではないかと。

【旅行会社】

- ① あり 3人
- ② なし 0人

要望事項：倉庫だけとなると難しいので、実際に機械が稼働しているところは確実にみたい。

見学内容詳細の事前学習の提案。

《海のしごとの講話（タグボート・通関士・代理店業）》

【教育関係者】

- ① あり 4人
- ② なし 1人

理由：修学旅行でというよりは社会科見学で訪問させていただくのがいいのかなと思いました。

要望事項：タグボートの話は大きなスクリーンで見せた方が臨場感があると感じました。
タグボートは映像研修だったので船舶の出航や寄港時に見学できれば良い。
話を聞くスペースを確保できるとありがたい。
バスの中で講話を聞くのは、車酔いしやすい生徒は厳しいのではないのかと感じました。

【旅行会社】

- ① あり 2人
- ② なし 1人

理由：講話系のプログラムは行程に複数入れにくいですが、あえて入れるほどの内容かどうか。ガイドがバスに付くのではなく専門的な人を1名ずつとなると複数台での回転が難しい。

《コンテナヤード見学・トラック輸送見学・荷役機械等体験乗車》

【教育関係者】

- ① あり 3人
- ② なし 2人

理由：トラック輸送見学は屋上デッキでの説明であったが、RORO 船や一般貨物船の見学があれば十分と感じる。
荷役機械乗車体験は若干移動時間がかかるため魅力的ではあるが、コースに組み入れるのは難しいと思われる。
西港からの移動距離が長い、時間の関係もあり、希望者全員が乗車体験をできるわけではないと考えると修学旅行への組み込みは難しいのかなと感じました。
修学旅行でというよりは社会科見学で訪問させていただくのがいいのかなと思いました。

要望事項：船からコンテナを降ろす作業も間近で見ることができれば、なお興味を深めることができるのではないか。

【旅行会社】

- ① あり 3人
- ② なし 0人

要望事項：重機が動いている最中の解説がほしい。
乗車体験の実施可能人数の明確化、体験出来ない生徒様に対する代替案。

《特別講話（水先人・船長）》

【教育関係者】

- ① あり 5人
- ② なし 0人

要望事項：フェリー乗船後に水先人と船長の話、船酔い防止の話はプランに組み入れたいのでお願いしたい。
簡単ではないと思いますが、フェリーを利用する修学旅行ということで操縦室などの見学と合わせてお話を聞かせていただくと、より生徒たちの興味が増すのではないかと思います。

【旅行会社】

- ① あり 3人

② なし 0人

要望事項：積極的に学生団体の受け入れをお願いしたい。

《震災遺構見学（荒浜小学校）、「被災地視察（女川町）」は訪問中止》

【教育関係者】

① あり 5人

② なし 0人

要望事項：いつ、どこで、どんな災害が起こるか想像できない状況で、この場所を訪問しない理由が見つかりません。時間があれば、大川小や女川町にも行って見たかったです。

荒浜小学校は校舎内での見学が可能なのでコースに組み入れたい。

女川町は夕暮れ時にさしかかり急遽プランから外れてしまったが修学旅行の見学地としては候補としてあげたい。

次年度の修学旅行で女川町の見学を検討していたので、訪問できなくなり残念だった。

修学旅行で訪問する際には、ガイドの方のお話を聞かせていただきながら見学できるとより学びの多いものになると思います。

【旅行会社】

① あり 3人

② なし 0人

要望事項：ポジティブな気持ちで震災学習を終えられるように出来ればより良い。

【考察】

プログラムの修学旅行への組込みの可能性については、総じて肯定的な結果となっており、特に、水先人や船長の講話と震災遺構見学に関しては「積極的に学生団体の受け入れをお願いしたい。」「荒浜小学校は校舎内での見学が可能なのでコースに組み入れたい。」等、導入を期待する意見が多くあった。

船、物流倉庫等の見学や海の仕事の話に関しては、社会科見学による実施を望む意見があることから、修学旅行においてプログラムを実施する優位性やメリットの理解が得られるよう、内容を修正する必要性が感じられる。

また、物流倉庫見学に対する「資料や映像による研修で補えると感じた。」等の意見やコンテナヤード見学や荷役機械等体験乗車に対する「RORO船や一般貨物船の見学があれば十分と感じる。」「西港からの移動時間が長く、希望者全員が体験できない」等の意見から、コンテンツの再検討と運営方法の改善の必要性が把握できた。

8. 以下の各プログラムについて、「①あてはまる・②あてはまらない」のどちらかを選択し、その理由を教えてください。

《RORO船・一般貨物船・フェリー荷役見学》

【教育関係者】

○生徒にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：RORO船のような大きな船の中を見るというだけで、生徒にとっては興味深いものだと考えられる。

運搬等の作業見学ができ、人の働きや物の動き、生での迫力が十分に伝わって、普段知ることのない仕事を学ぶことができる。

普段入れないところに入って見学をさせていただけるので興味深いと思います。普段入ることのできない船の中へ入ったり、貨物の積み下ろしを見たりすることができ、とても興味を持つのではないかと感じたから。

十勝の子ども達は海運事業を目の当たりにする機会がないため、見学地としての魅力がある。

○生徒にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：座学による資料提示ではなく、フィールドワークは生徒にとってより身近に感じる内容である。

作業内容を実際見ることで分かりやすい。

実際に見て説明を聞いたので生徒にとっても分かりやすいと思います。

② あてはまらない 2人

理由：具体的な説明や体験的な内容がもう少しあった方が良い。

どちらかという小学生向けに感じた。

説明の際には屋外でも聞き取れる音量が必要。

少し説明が難しいところがあり、生徒によっては分からないと感じる子もいると思います。

○学習と関連づけられる内容だった。

① あてはまる 4人

理由：物流に関しては「中学校社会」、働く人の生き方に触れるという点では「総合的な学習の時間」と十分関連付けられます。

中学校の社会科の単元では難しいが総合的な学習の時間の調べ学習や体験学習での学びは可能である。

社会科見学として有効。

荷物を運ぶ手段として船が多く使われていること、どのように運んでいるのか実際に見ることができたからです。

② あてはまらない 1人

理由：詳しいことが分からないので何とも言えませんが、どちらかという、小学生で行う産業の学習との関連が強いのかなと思いました。

厚真町ではなかなかこういったことは扱いませんが、苫小牧市だと自分たちの町の産業について勉強した段階で学習と関連付けられる内容だったと思います。

○教員にとって、興味深い内容だった。

① あてはまる 5人

理由：初めて「見るもの」「乗るもの」「聞く話」などは、大人や子どもを問わず興味深いものです。

フィールドワークは教員にとっても身近で興味や関心が高まる題材である。

RORO船の意味を初めて知ることができた。

物流について知ること、自分たちの生活とのつながりを実感できた。

特にナラサキスタックスさんが行っていた荷役を見学させていただいて、色んなものが自動化する中でも、物流を支えているのは人なのだ実感することができ、感動しました。

船の中を見学したりフェリー荷役を見学したり、荷物がどのように運搬されているのか知ることができとても面白く感じたからです。

【旅行会社】

○旅行提案先にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 2人

理由：普段は出来ない貴重な体験が出来ると感じた。また、「道内の物流産業を学ぶ」という明確なメリットがあり且つ苫小牧港らしい内容でキャリア教育にも繋がるので学校に非常に提案がしやすいと感じた。

② あてはまらない 1人

理由：修学旅行というよりも社会科見学的な面が大きく、旅行感がないのが難しいところであるが、好きな先生は好きだと感じる。生徒も実際に見れば印象が変わるように感じた。

○旅行提案先にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：物流の最前線を学ぶという面では目的がわかりやすい。
自分たちの生活に関わるまでの流れが聞けるとより分かりやすいと感じた。
事前学習できるような資料等があればより良い。

○旅行行程に組み込みやすい内容だった。

① あてはまる 2人

理由：安全管理が徹底出来ればぜひ組み込みたい。
フェリー乗船前のコンテンツとしては立地が良い。

② あてはまらない 1人

理由：札幌市内の中学生と考えると、狭い動線で規模が大きく一度に動かせる人数に限りがあるため難しいと感じた。ただ、迫力があり、普段は絶対見ることができない場所なので工夫次第。

《物流倉庫見学》

【教育関係者】

○生徒にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 2人

理由：重量の大きな資材が迫力があつた。
金属加工の場面も見られるとさらに関心が高まる。
クレーンゲームのように上から操作して運ぶ様子を見ることができたので、生徒は興味を持つのではないかと思ったからです。

② あてはまらない 3人

理由：今回の説明では興味を持つのは難しい。具体的な説明がないと生徒の理解は深まらないと考えます。
加工現場や製造過程の学びは動きがあるため生徒にとって興味や関心が持てると思うが、物流倉庫見学はもう一つ工夫が必要と思われる。
興味のある子もいると思いますが、そうではない子にとっては退屈な時間になってしまうかもしれないです。

○生徒にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 2人

理由：資材の用途について説明があつたことで、倉庫の意味を理解することができた。
倉庫内の鋼板についての説明は大変わかりやすい内容であつた。
始めにバスの中から見学・説明し、次にバスから降りて見学できたので、説明が理

解しやすいと思ったからです。

② あてはまらない 3人

理由：今回の説明では興味を持つのは難しい。具体的な説明がないと生徒の理解は深まらないと考えます。

倉庫内での説明が聞き取りにくい部分もあったので、拡声器を使用するなど工夫があるとよいと思いました。

○学習と関連づけられる内容だった。

① あてはまる 4人

理由：物流の概要を学習の最初に説明したのちに、順序立てて見学できると良いと思います。見学の中で、「この場面は物流のこの段階」というのが生徒は意外にわかっていないので。

総合的な学習の時間の調べ学習や体験学習での学びは可能である。

社会科見学として有効。

午前中に見学した船で運ばれてくる荷物を、倉庫で保管しておくという物流の流れを見ることができたから。

② あてはまらない 1人

理由：こちらも、どちらかという小学生の学習との関連が強いのではと思います。

○教員にとって、興味深い内容だった。

① あてはまる 4人

理由：大人が見学する上では、説明したい内容はある程度伝わってきたので。

屋外では、多少でも・短時間でも体験的な内容があった方が良いと思います。

物流倉庫の役割を理解できたことで、授業に生かすことができる。

パンフレット等で理解していても実際に見ることで実感できた。

これから作られる北広島ボールパークの資材が保管されているという点にはわくわくしました。

船で運ばれてきた荷物が倉庫に運び込まれ、また違う場所に運搬されるといった流れが理解でき面白いと感じたからです。

② あてはまらない 1人

理由：物流倉庫見学ではもう一つ工夫が必要と思われる。

【旅行会社】

○旅行提案先にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 2人

理由：北広島のボールパークや住宅素材の話など親近感の沸く鋼材も多かったので、そういう部分を深掘りできればより良いと感じた。

② あてはまらない 1人

理由：専門的すぎて、中高生の興味を引き出す内容でない。

○旅行提案先にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 2人

理由：中にある機械が動いているところや作業現場を見ることは大きな学びにつながると感じる。

② あてはまらない 1人

理由：専門的すぎて、中高生の興味を引き出す内容でない。

○旅行行程に組み込みやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：他見学場所より大人数（1クラス～2クラス程度）の受け入れが出来るので、行程

には組み込みやすいのではないかと感じた。

《海のしごとの講話（タグボート・通関士・代理店業）》

【教育関係者】

○生徒にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：なかなか出会うことのできない職業だから。

通関士の話が興味深く、時間が足りなかった。

通関士の説明はとても興味を持てる内容であった。

映像による説明と実際に使われる通関士のマニュアルは資料として最適であった。

普段知ることのない仕事に触れ、生活を支える大切な役割を知ることができる。

生徒たちにとっては馴染みのない職業でしたが、自分たちの生活に直結するお話をしていただいたので、興味がわくのではと思いました。

海に関わる仕事につきたい生徒もいると思うので、どんな仕事なのかを知るきっかけになって良いと思ったからです。

○生徒にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 5人

理由：説明する側のスキル（話術）が大切だと考えています。

タグボートの話は、大きなスクリーンで見せた方が良いと思います。

通関士とはから始まり、実際の業務や役割についてわかりやすい内容であった。

どちらも映像を使っていて説明された内容をイメージできた。

映像とともに説明を聞かせていただいたので、わかりやすいと思います。また、実際に使われている道具に触らせていただける点はありがたいです。

実際に実行関税率表を見せていただいて、仕事内容が想像しやすかったから。

○学習と関連づけられる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：キャリア教育としての位置付けで十分取り上げることができます。

中学校ではキャリア教育の1年生における職場調べ学習や2年生の職業体験前の事前学習として活用ができる。

小学生は社会科見学、中学生はキャリア教育（総合的な学習、道徳、特別活動）として。

キャリア教育として考えると、生徒たちが「こんな仕事もあるんだ」と知る良いきっかけになるのではと思いました。

船に乗ること以外にも、海に関わる仕事はあるということを理解できると思うからです。

○教員にとって、興味深い内容だった。

① あてはまる 5人

理由：教員にとって興味深い内容は、児童生徒にとっても興味深いと思います。

通関士とは・・・から始まり、実際の業務や役割についてわかりやすい内容であり興味が高まった。

特に通関士は初めて知ることができた。

普段お話を聞くことのない職業だったので、とても興味深かったです。

【旅行会社】

○旅行提案先にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 3人

理由：バスの移動時間にも話を聞けるのは魅力的である。

バスの移動時間だけではなかなか伝わりにくいので、しっかりとお話を聞ける機会を設けても良いと感じた。

○旅行提案先にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 1人

理由：港町に住んでいなければ接することのできない職種の方のお話を聞けるのは非常に魅力的。

② あてはまらない 2人

理由：専門的な話になるので生徒の集中力と話者の伝え方の工夫が要求されると感じた。

短い時間ではあまり伝えきれなかったかなという印象。

バス車内ということもあるのでビデオや流し聞きできるガイドくらいが好まれる。

○旅行行程に組み込みやすい内容だった。

① あてはまる 2人

理由：車内講話ではなく、会場での講話として組み込めると感じた。

② あてはまらない 1人

理由：バスの移動を有効活用したいのはあるが、話者が変わっていくのは回転させるうえで難しく、市内の学校だとバスの台数も多くなるので現実的ではないと感じた。

《コンテナヤード、トラック輸送、荷役機械体験乗車見学》

【教育関係者】

○生徒にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：体験的な活動は、子どもたちのキャリア教育を進めていく上で重要ですので、この場所に関わらず積極的に取り入れて欲しいです。

荷役機械乗車体験は迫力ある重機を目の当たりにできることから興味が持てる内容である。

時々見かけるコンテナがどんな風に生活につながるのかを知ることができる。

実際に使われているものに触れたり、乗ったりできて興味がわくと思いました。また、実際の作業風景も見ることができて面白いと思います。

実際に乗せてもらったり、間近で作業を見ることができて興味深いと思ったからです。

○生徒にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 5人

理由：体験的な活動は、子どもたちのキャリア教育を進めていく上で重要ですので、この場所に関わらず積極的に取り入れて欲しいです。

実機を視察できるためわかりやすい内容である。

コンテナから中身を取り出しトラックに乗せ、運転する人から話を聞くことで、物流に様々な職種の多くの人に関わっていることが実感できる。

実際の作業風景を見ながらお話が聞けたので、わかりやすいと思います。

目の前で作業している姿を見ることができたので分かりやすかったです。

○学習と関連づけられる内容だった。

① あてはまる 3人

理由：実際に働いている人と「出会う」「話をする」「仕事の一端に触れる（体験する）」ことができそうなので、職業観や社会観を育てる学習として効果的だと考えます。小学生は社会科見学、中学生はキャリア教育（総合的な学習、道徳、特別活動）として。

午前中に説明を受けた、船で運ばれてきた荷物をコンテナヤードに運んだり、トラック輸送をしたり、物流の流れが分かったからです。

② あてはまらない 2人

理由：総合的な学習の時間に位置付けることは難しい内容である。小学生の社会科見学等で活用が可能と思われる。

こちら、どちらかという小学生の学習との関連が強いのではと思います。

○教員にとって、興味深い内容だった。

① あてはまる 4人

理由：映像等ではなく、現場で「働く」ことを実感できる機会には興味関心があるものと押さえています。

わずかな時間だったが、トレーラーに乗車し運転手の方の話を少し聞いたことで、運転手に対するイメージが大きく変わった。

実際に乗車体験をさせていただき、大変おもしろかったです。

実際に乗ることができたのはとても良かったです。

女性のドライバーもいると知り、身近な職業なのだと感じました。

② あてはまらない 1人

理由：実機を目の当たりにすることで興味は高まるが移動距離の問題と実体験できる人数に制限があるため、修学旅行の体験学習としては難しいと思われる。

【旅行会社】

○旅行提案先にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 3人

理由：間近で見る迫力が想像をはるかに超えており、非常に貴重な体験であった。

○旅行提案先にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：説明もあり分かりやすかったと感じる。何より、目の前で作業を見るのは言葉よりも説得力がある。

○旅行行程に組み込みやすい内容だった。

① あてはまる 2人

理由：安全面に気を配れば、他見学場所より大人数（1クラス～2クラス程度）の受け入れが出来そうなので、行程には組み込みやすいのではないかと感じた。

② あてはまらない 1人

理由：乗車体験の人数制限

《特別講話（水先人・船長）》

【教育関係者】

○生徒にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：普通に生きていては、出会えない職業の方々だから。

業務内容がよく分かることに加え、水先人や船長の話し方が面白く人を引きつけると感じた。

高度な専門性を求められる仕事なのだと理解できた。

フェリーを利用するのであれば、そこに関わる方々のお話を聞くことで、よりフェリーに興味をもってもらえると思います。

水先人や船の船長など、将来なりたい生徒もいると思ったからです。

○生徒にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 5人

理由：お二人の話し方、話す内容、資料提示の手法など、全体を通してわかりやすかったので。

座席からゆったりと映像や写真などを見ながら説明を受けるのはわかりやすい。

とても分かりやすく時間があればもっと聞きたいと思う。

全般的な内容だけでなく、個人的な経験やエピソードを加えるとなお理解が深まると感じた。

映像もあったので、理解しやすい内容だったと思います。

船長の話が面白く、話が入ってきやすいと感じたからです。

○学習と関連づけられる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：キャリア教育のみならず、国際理解教育にもつながる内容だと感じました。

修学旅行でフェリー乗船時に説明を受けたいと思う。

総合的な学習の時間に位置付けることは可能である。

キャリア教育として、仕事の紹介だけでなく、自身が日常どのように業務を行っているのか、どのようにして現在の仕事に就くことができたのかをもう少し具体的に話してもらえるとさらに理解が深まると感じた。

キャリア教育として考えると、生徒たちが「こんな仕事もあるんだ」と知る良いきっかけになるのではと思いました。

実際に今から乗るフェリーや、貨物船ではどのように船長が指揮をして、水先人はどのような役割を果たしているのか考えながらフェリーに乗ることができたから。

○教員にとって、興味深い内容だった。

① あてはまる 5人

理由：私自身（多くの教職員も）が知らないことが多く、引き込まれる内容だったので。

「長」のつく方の話は、やはり重みがあると感じました。

水先人や船長の話し方が子どもも大人も引きつけ、興味や関心が高まる内容であった。

船長のキャラクターがユニークで興味深かった。

船内でもお話しできる機会があるとさらに理解を深められると感じた。

普段お話を聞くことのない職業だったので、興味深かったです。

どのような仕事内容なのか、簡潔に説明してもらいとても興味を持ったからです。

【旅行会社】

○旅行提案先にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 2人

理由：どちらもキャリア教育となるし、普段接することのできない職種の方且つ業務内容がいまいち想像できないという部分に関して、非常に魅力的であった。

② あてはまらない 1人

理由：普段出会うことのない人の講話は聞いてみれば面白いが、修学旅行で講話というと

難色を示す先生も多い。事前学習での活用のほうが向いているように思う。

○旅行提案先にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：映像もあり、話は非常にわかりやすかった。

自分たちが乗るフェリーについての話は高揚感がある。

○旅行行程に組み込みやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：会場の問題はあるが、乗船前に話を聞くのは旅の期待感を上げる。

時間をもう少しコンパクトにできればより組み込みやすくなるように感じる。

ぜひ提案したい内容であると感じた。

講演場所がフェリーターミナル内もしくはフェリー内であるとより業務内容の理解が得やすいと感じた。

《震災遺構見学（荒浜小学校）、「被災地視察（女川町）」は訪問中止》

○生徒にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：当時の状況が想起されるという意味で、大切な場所であることが児童生徒でもわかると思うので。ガイドによる説明、様々な資料や映像があるというのは興味を引くはずである。

荒浜小学校の校内が見学できること。震災被害を目の当たりにすることができる大きい。

津波災害の実際の状況が保存されており、展示や映像にも触れることができ興味を持ちやすい。

災害体験のある生徒にとってはトラウマによる影響が誘発される可能性がある。

日頃過ごしている学校の被害の状況を見せてもらうことで、生徒たちの心に突き刺さるものになるのではないかと思います。

震災が起きたそのままの状態が残っており、地震や津波の恐ろしさを肌で感じることができると思うからです。

○生徒にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 4人

理由：当時の状況が想起されるという意味で、大切な場所であることが児童生徒でもわかると思うので。ガイドによる説明、様々な資料や映像があるというのは興味を引くはずである。

荒浜小学校の校内が見学でき、写真パネルや説明がありわかりやすい内容である。

実際の状況と展示、映像がわかりやすくコンパクトにまとめられており、ガイドの話聞くことで理解を深めることができる。

荒浜小学校の各階にある説明や、津波伝承館のスタッフさんの説明が分かりやすかったです。

② あてはまらない 1人

理由：今回はなかったですが、実際にガイドさんについていただき、お話を聞かせていただくと生徒たちも臨場感を感じられるのではないかと思います。

○学習と関連づけられる内容だった。

① あてはまる 5人

理由：各校で行われている、防災学習とリンクしないということはないのでは？

震災学習の見学地としては申し分ない。

訪問前に事前学習を行うと見学時に学習の深化に期待できる。

防災学習に取り組む学校が増えており、学校で行っている内容と比較することで理解を深めることができる。

特に厚真町で日頃力を入れて行っている防災教育について考える良い機会になると感じました。

なぜ、避難訓練や自分で考えて行動することが大切なのかを考えさせることができます。

胆振東部地震で経験したことや学校の防災教育と関連して学習できると感じたからです。

○教員にとって、興味深い内容だった。

① あてはまる 5人

理由：興味深いというよりは、誰もが訪れる必要のある場所だと感じました。スペース的にも、ある程度の時間で回れる施設であるとも感じました。

子どものみならず教員にとっても学ぶことが多い内容である。

荒浜小学校は興味深かった。

女川は復興に取り組んでおり、防災に関する学習からの発展を考えるためにもぜひ見学したかった。

実際の被災地のそのままの状態を見せていただくことで、どれほど地震・津波が恐ろしいものなのか肌で感じることができました。

大きな地震を経験したことがないですが、荒浜小学校や津波伝承館を訪れて実際に体験したような感覚になり、被害を最小限にするにはどのような行動をとるべきか考えるきっかけになったからです。

【旅行会社】

○旅行提案先にとって、興味関心の持てる内容だった。

① あてはまる 3人

理由：震災を体験していない学生が増えていく中で、学びの要素として非常に重要であると感じた。

震災は学校によって好き嫌いが分かれるが、その地でしか見られないものであり体験させたい先生には魅力的である。

○旅行提案先にとって、わかりやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：実際に現地で見ることができ、見学施設としても完成している。

ガイドさんの話を聞きながらの見学でより学びの深い体験が出来ると感じた。

○旅行行程に組み込みやすい内容だった。

① あてはまる 3人

理由：荒浜小学校は仙台港からも近く利便性が高いので、導入の震災学習場所としては非常に立寄りやすい。

中学生を対象とする場合、これ以上の震災学習は精神的に負荷がかかってしまう気がしたので、1カ所2カ所が限界と感じた。

仙台での見学はJRで青森から入る学校にとっては遠いと感じるところもあるが、訪問地としての魅力や意義は大いにあるので組み込みやすい。

【考察】

○船・物流倉庫の見学、体験乗車等

このパートは、日頃、目に触れる機会が少ないと考えられる海事・物流産業の最前線の現場を肌で感じて、「①興味と関心に繋げる。②国内各地との繋がりを学ぶ。③生徒自身の日常生活とこれら産業との関わりを学ぶ。」ことを目的に実施した。

船の見学に関するアンケートでは、全回答で生徒、教員にとって興味・関心が持てる内容との結果であった。また、「物流について知ること、自分たちの生活とのつながりを実感できた。」「道内の物流産業を学ぶという明確なメリットがある」等の意見から、船の見学にあっては概ね目的を達成できるコンテンツであったと考えられる。

物流倉庫見学にあっては、「物流倉庫の役割を理解できたことで、授業に生かすことができる。」「パンフレット等で理解していても実際に見ることで実感できた。」との意見がある一方で、「具体的な説明がないと生徒の理解は深まらない。」「どちらかというと小学生の学習との関連が強いと思う。」等の意見があることから、物流における倉庫の役割を更に意識した内容への修正と説明内容等、運営上の課題解消を図る必要性が把握された。

体験乗車にあっては、「荷役機械乗車体験は迫力ある重機を目の当たりにできることから興味を持てる内容である。」「コンテナから中身を取り出しトラックに乗せ、運転する人から話を聞くことで、物流に様々な職種の多くの人に関わっていることが実感できる。」等の意見から、体験乗車も目的達成のコンテンツとして適していたと考えられる。

また、「体験的な活動は、子どもたちのキャリア教育を進めていく上で重要ですので、この場所に関わらず積極的に取り入れて欲しいです。」との要望や、「説明もあり分かりやすかったと感じる。何より目の前で作業を見るのは言葉よりも説得力がある。」「トレーラーに乗車し運転手の方の話を少し聞いたことで、運転手に対するイメージが大きく変わった。」等の意見があり、荷役機械やトラックへの体験乗車を通して、物流が身近な仕事であるとの認識と運転手に対するイメージに変化がみられる等、教育関係者に十分訴求できるコンテンツであったと考えられる。

これらの結果から、提供したプログラムは海事・物流産業の役割等の理解醸成のためのコンテンツとして適していたと考えられる。

他方で、「どちらかというと小学生の学習との関連が強いと思う。」との意見や、説明の聞き取りづらさに対する意見があることから、プログラム内容のクオリティを高める必要性を感じると同時に、説明の際には生徒に対して適切なタイミングで声掛けをする等、コミュニケーションを図りながら進行する必要性も感じられた。

○海の仕事、水先人・船長の講話

海事・物流企業等で働く関係者からの講話は、海事・物流産業が果たす役割等の理解の深化を図ることを目的に実施した。

アンケートでは、「フェリーを利用するのであれば、そこに関わる方々のお話を聞くことで、よりフェリーに興味をもってもらえると思います。」「キャリア教育のみならず、国際理解教育にもつながる内容だと感じました。」「船内でもお話しできる機会があるとさらに理解を深められると感じた。」等、積極的な評価が得られており、海事・物流産業への興味関心の高まりや日本と世界の結びつき、国内と北海道の結びつき等に対する理解の深化が期待できる。

また、キャリア教育の視点からプログラムの有用性が指摘されていることから、今後は説明者との対話を導入する等、生徒自身の将来に繋げて考える効果を高め、働くことの意義の理解と深い学びが可能となる手法を検討することも必要と考えられる。

移動バス車内で行った講話では、運営手法について改善する必要性が指摘されている。

○震災遺構見学

日本の地理的特性から沿岸部に人口が集中する傾向があり、将来再び大きな津波災害の

リスクに直面することが予見される。

東日本大震災被災地の訪問は、海の防災教育として「いのちの尊さ」「人への思いやり」「支え合うことの大切さ」等を実感することを目的に実施した。

アンケートでは、「胆振東部地震で経験したことや学校の防災教育と関連して学習できると感じた。」「日頃力を入れて行っている防災教育について考える良い機会になると感じました。」「なぜ、避難訓練や自分で考えて行動することが大切なのかを考えさせることができる。」等の意見から、今後は、学校現場で行われている防災教育との連携を深めることも必要と考えられる。

9. 講話：船旅・船酔いについて（池田名誉教授）（複数回答）

- | | |
|---------------|----|
| ① 知らないことが多かった | 7人 |
| ② 参考になった | 8人 |
| ③ 今回実践してみた | 2人 |
| ④ 効果があった | 0人 |

○印象に残った内容（船酔い）

- ・基本的に大きく揺れない構造になっていること。→ 安心・安全な乗り物であること
- ・揺れない船は船体に負荷がかかって割れやすくなるため、あえて揺れることで船体に負荷をかけない造りになっているというのは印象的だった。
- ・乗船前に知識を入れることは精神的にも準備ができ良いことだと感じた。
- ・目と耳との感覚にギャップが生まれることで船酔い状態になるので、目と耳を塞ぐ、寝てしまうのが効果的である。

○印象に残った内容（海運とフェリーの役割）

- ・物流における船舶の役割は非常に興味深かった。
- ・なぜ、フェリーを使用することがいいのかという点を様々なデータとともに見せていただいたことで、自身の旅行の形を考えるきっかけにもなりそうです。
- ・「目覚めたら新しい街」をフレーズに、睡眠時間を有効活用できる船の魅力をたっぷり紹介いただきました。
- ・海上輸送は、大量輸送で輸送コストを大幅にカットでき、他のモードを圧倒するコストパフォーマンスかつ、CO₂の排出量が少なく、環境に優しい輸送形態ということを学びました。
- ・また、海上輸送以外がダメと言うわけではなく、エネルギー効率を考慮し運ぶものに適した輸送機関を活用するのがよいことを学びました。（低速：船、中速：鉄道、高速：飛行機 など）
- ・船が浮かぶメカニズムのお話があり、飛行機は大きさに限界が生じるが船はいくらでも大きくできるということに衝撃を受け、さらに、大きくすればするほどエネルギー効率が向上することを知って驚きました。
- ・日本における輸出入貨物の99.6%が海運で占めており、日常生活に密接に関わっていることを改めて感じた。
- ・また、海運が止まると3ヵ月で電力を消失してしまうとの説明があり、電力を生むエネルギー資源をも外国に依存しているリアルな事情を感じさせられた。
- ・モーダルシフトの説明に関して、トラック輸送の長所短所をまとめた上で、モーダルシフトによりCO₂排出量が大幅に削減（船舶80%削減、鉄道90%削減）されること、船内休憩をはさむので、ドライバーの労働環境改善にも貢献すること等勉強になった。
- ・旅客輸送によるCO₂排出量について、フェリーの場合トラック等の車両乗船が重量の大半を占めていることから、旅客乗船によるCO₂排出量への影響は限定的であるとのこと。

- ・水の抵抗があるため、陸上輸送より海上輸送の方がエネルギー効率は悪いのかと思っていましたが、実際は海上輸送の方がエネルギー効率は良いことがわかりました。
- ・トラックによる貨物輸送を鉄道や船舶による輸送に転換するモーダルシフトをうまく活用することで、CO₂排出量削減につながりSDGs達成に貢献するのだと思いました。

10. 東日本大震災被災地訪問によって、「いのち」の尊さ、人への思いやり、支え合うことの大切さを学ぶことができましたか。

【教育関係者】

① はい 5人

理由：2日目のガイドさんの説明が物静かな中にも、強い思いがあって伝わるものが多かった。

やはり「人と人とのつながり」が大事だということが確認でき、実際に被災者の話を生で聞くことで、継続的な防災・減災教育や安全・安心な学校体制を一層推進する意識を高めることができた。

場所によっては見学のみだったが、ガイドによる説明があることで学ぶ視点が定まる。

伝承館も学ぶべきことは多かったが荒浜小学校で説明を受けることで印象が残ると思われる。

地震や津波災害の甚大さを改めて知ることができた。そこから日常の防災にどうつなげるか、地震や津波だけでなく、全国で頻発する大雨災害や土砂崩れなどにもつなげられるとなお効果的だと感じた。

実際に被災場所を見せていただいたこと、伝承館で様々な方の話に触れたことDVDを通して復興に向けた実践を見せていただいたこと、色んな形でアプローチしていただき考えることができました。

震災が起きたときの対応や、日頃からやっておくとよいことが学べました。

【旅行会社】

① はい 3人

理由：震災学習での立ち寄り箇所は1カ所もしくは2カ所程度で、「防災」の観点から未来に繋がるポジティブな内容で締めくくれたらより良いと感じた。

11. 修学旅行として実施するにあたり、改善すべき点を教えて下さい。(記述)

【教育関係者】

- ・ほとんどの子どもはフェリーに乗った経験がない。そのあたりの不安をどう払拭していくのが、根本的な課題だと考えます。
- ・確かに揺れは少なく、快適に感じましたが、初めて乗る場合、「船に乗ることを不安に感じたり、乗っているだけで酔った感じになる」という子ども達も多いのではないのでしょうか？
- ・学校のみならず、行政担当者やPTA関係者（保護者）にも周知し、実際に乗ってもらう機会を設けてはどうでしょうか？例えば、チャーターで苫小牧⇄室蘭間で試乗体験してみるとか。
- ・「修学旅行3日間」の壁をどう乗り越えるか・・・
- ・修学旅行では泊数とそれに見合う予算が検討の柱となる。
- ・交通費と宿泊費が合算できるフェリーを選択すると宿泊が1日加算され3泊4日となる
- ・航空機や新幹線は移動費がかさむが移動時間が短いので宿泊日数を2泊3日にできる。
- ・学校では年間授業時数やテスト、中体連大会などのスケジュール面と修学旅行費の負担

をいかに上げないか。予算と日程、見学場所と学校としては子どもに何を学ばせ、何を体験させたいのかが根幹にある。

- ・フェリーを利用する場合、仙台を拠点にどんな学習ができるかが課題となっている。
- ・今回は防災がメインだったが、歴史や文化、産業などのコンテンツも提示してもらえると、今後フェリーを利用した東北での修学旅行が改めて定着する可能性がある。
- ・現状では仙台近郊の魅力的なコンテンツが不足しているため、今日学校に求められているキャリア教育的な視点でコンテンツ開発を行えると可能性を広げることができる。
- ・バスに乗りながら映像を見るのは時間を有効活用できる反面、バス酔いをしてしまう生徒にとっては苦痛な時間になってしまうのも事実かと思えます。
- ・DVDなどを借りることができるのであれば、映像資料は事前に見せたいです。
- ・バス内で講話を聞くのは酔ってしまい難しいと思えます。
- ・1日目の内容・移動回数が多く、3日目が少なく感じました。生徒がよりよい学びを得るためにも1日目の内容を少し減らし、3日目にバス内で話していた内容をするなどもう少し3日間の内容を均等にすると良いのではないかと思います。

【旅行会社】

- ・市内（札幌）の学校は朝からJRで東北に入る行程と比べてどうしても一日を道内で潰さなければいけないことに抵抗があるように感じる。
- ・関係各所の受入や説明のクオリティアップ。
- ・せっかくの見学が無駄にならないよう、事前学習の提案も含めて出来れば良い。
- ・バスを利用したクラス別研修がまわせるようコーディネート出来ると、クラス数の多い学校も誘致することが出来る。

【考察】

アンケートでは、フェリー利用の課題として「フェリーに乗った経験がない。」「船に乗ることを不安に感じたり、乗っているだけで酔った感じになる。」等、乗船の未経験を要因とする課題が指摘されている一方で、この課題解決への参考意見として、行政担当者やPTA関係者にも乗船機会の提供を行う必要性が提示されている。

運営面での検討事項としては、バス移動の際の学びにおけるバス酔いへの懸念が指摘され、DVDの活用による事前学習方法等が提示されている。

また、訪問先の課題として、仙台近郊の魅力的なコンテンツ不足に対する指摘がされ、旅行日数と予算についても課題が提示されている。

このように多くの課題が提示されている一方で、「歴史や文化、産業などのコンテンツの提示によってフェリーを利用した東北での修学旅行が改めて定着する可能性がある。」「学校のみならず、行政担当者やPTA関係者（保護者）にも周知し実際に乗ってもらう機会を設けてはどうでしょうか？」等、課題解消策のヒントとなる意見もあった。

今後はこれらの意見を参考に関係者と改善点の洗いだし等を行い、内容のリバイスを図っていくこととする。

12. 修学旅行にフェリーを利用する場合に、ハードルと考えられることがあれば教えて下さい。また、その解消策へのアドバイスがあれば教えて下さい。（記述）

【教育関係者】

- ・修学旅行が3日間であることを考えると、フェリー活用はその期間の中で収まらないのがハードルです。行きで乗るより帰りで乗る方が生徒のダメージは少ないでしょうがそれとて3日目の夜に乗り、4日目の朝に苫小牧に戻ってくるイメージで、保護者、教員それぞれの理解を得るのは難しいかもしれません。

⇒先進的に実施する学校が必要となるので、多少予算は必要ですが、行政等の連携のもと「実践事業（モデル事業）」として、道内の数校に手を挙げてもらい、SDGs や安価で魅力的な旅行を提供できるという視点で取り組んでもらってはいかがでしょうか？

- ・想像しづらいですが、船内で対応の難しい傷病が発生した場合は、乗っている時間が長いこと、海上であるということから対応が難しいのではないかと感じました。

⇒十分対策は練られているとは思いますが・・・

- ・新幹線と飛行機による2泊3日か新幹線とフェリーの3泊4日の日程となる。
- ・フェリーを活用した場合は苫小牧周辺の見学地、仙台港から震災学習の見学地や中尊寺などの名所へのルート、移動にかかる時間を考えた上での検討。
- ・利便性を考えると往路に航空機を使用すると午前中で1, 2箇所の研修が可能となり東京方面では見学地が密集しているため修学旅行の候補地として優先的になる。
- ・フェリーは移動と宿泊が同時にできるが港から見学地までのルートが遠隔地の場合は見送る場合がある。
- ・フェリーを利用するとすれば復路となる。（夜間の利用は効果的だが、船酔いになった場合、その後の行程が難しいため）
- ・復路の利用を前提とした仙台での乗船前後のプログラム（キャリア教育＝物流を含むや、SDGsに関する内容が効果的）を充実できると選択の可能性が広がる。
- ・近年、働き方改革で教職員の負担軽減が求められている中、飛行機を活用して2泊3日で実施する学校が増えている状況がある。
- ・フェリーを利用することで3泊4日になると教職員の負担が増加するデメリットが生じるので、それを上回る複数のメリットを提示しなければならない。（経費やSDGs（環境負荷の軽減）、キャリア教育など）
- ・仙台周辺のプログラムづくりに苦勞している学校が多い。震災関連も教育効果が高いと思われるが、松島や震災以外のコンテンツ（キャリア教育やSDGs、歴史、文化など）を提案することで学校の関心を高めることができると思われる。
- ・学校側でフェリーを利用しようとする決めることはあまり難しくないとはいいますが、その後の生徒・保護者への説明で納得していただけるかという点がハードルだと感じます。例えば、今回池田先生にお話していただいた内容（エネルギー効率やSDGsに関わる話）を生徒にさせていただき、フェリー旅のメリットを生徒が理解した上で、修学旅行の行程を生徒に考えさせ、議論させ、選ばせるということができれば教育効果も高いので面白いなと思いました。
- ・行きにフェリーに乗るのではなく帰りをフェリーにすれば、船酔いの心配をすることなく修学旅行のすべての日程を楽しめるのではないかと思います。

【旅行会社】

- ・修学旅行で苫小牧で1日を過ごすことの意義（SDGsに特化した行程や見学プログラムの提案）
 - ・札幌市内では旅行会社、教員ともにフェリー修旅のノウハウがない（説明会、体験会の実施）
 - ・AIRやJRと比較した際の明確なメリット、付加価値の提案
- ⇒（解決策）・貸切対応が出来る・学校だけの船上パーティーが出来る。

1 3. 今回の体験会に参加してみて、全体を通しての感想を教えてください。(記述)

【教育関係者】

- ・修学旅行ということに焦点化しないのであれば、初日の内容は、キャリア教育やSDGsの視点で大変意義があり、興味関心が高まりました。
- ・フェリーの良さは、十二分に感じることができました。
- ・青函連絡船や室蘭発着のフェリーを基準に考えていたので、その考え方を改める良い機会となりました。
- ・「ただ観光をしてお終い」からの変革を学校は求められていますが、実際はなかなか移行していないのでも現状です。特に、防災教育については、その取組の重要性を再確認できる本当に貴重な機会となりました。市内の教頭会や校内研修等で情報提供するなど、今回の体験会の成果を広げていきたいと思います。
- ・今回の体験では移動手段としてのフェリーのみならず、海運事業について研修できたことは大きな収穫であった。
- ・フェリーを活用するには初日の研修を効率的に子ども達にも体験させたい。
- ・十勝では海運業について実体験する機会がないため幅広い職業観を培わせるためにも講話等で見聞が広がればと思う。
- ・スケジュールの関係で当初予定していた見学地を断念することがあったが、時間的制約や移動を含めた見学場所のプランを立てる際の参考となった。
- ・物流に関する学びは新鮮でキャリア教育的に効果が高いと感じた。
- ・震災に関する学びは扱いが難しいが様々な選択肢があることが分かった。
- ・普段関わることのない職種の方と様々な話しをすることができて刺激を受けることができた。
- ・夜行フェリーを利用するのは私自身初めてだったので非常に面白かったです。
- ・フェリーに関するお仕事をしている方々のお話を聞くことができたのも勉強になりました。生徒にも伝えていこうと思います。
- ・行程に関わることではないのですが、旅行会社の方など、普段交流することのない方々との出会いもあったので、どこかで意見交流の場があるといいなと思いました。
- ・今回の体験会に関しての交流でも、修学旅行に関する意見交流でも、様々な業種の方からのお話を聞く機会があればよかったなと思いました。
- ・交通手段としてフェリーはあまり選択肢に入っていませんでしたが、寝ている間に目的地に着いていたり、夜空や日の出を見渡すことができたり、とても良い点があることに気づけて良かったと思います。
- ・貨物船の中などの見学ができたり、座禅をしたり、普段の生活では行うことのできない経験ができたと思います。
- ・修学旅行というと観光地に行くイメージがありますが、フェリーを使ってゆっくりした時間を過ごすのも良いと感じました。

【旅行会社】

- ・市内(札幌)の学校で利用するのに、JRで東北に入ってから南下して仙台からフェリーで帰るルートも考えたが、正直札幌よりも胆振管内や道東方面の学校のほうが現実的なのかなとは思った。しかし、国を支える海運の現場をみることは、歴史的な建造物を見ることと並ぶほどの学びの価値があると感じたので受入態勢が整備されたら札幌市内の学校も興味を持つかもしれない。現段階でも札幌市内の中学は新しいもの好き先生も多いので、挑戦する価値はあるとは感じた。
- ・私自身フェリー初乗船でしたが、今までの「雑魚寝」「プライベート空間無し」「窮屈」のようなイメージが全て覆されました。

- ・過去にフェリーを利用した経験のある先生方の中には、新しくきれいなフェリーをイメージしていない人も多いかと思うので、まずは広く現在のフェリーを知ってもらう必要があるのではと考えます。
- ・AIR や JR より勝る部分、もしくはAIR や JR での困りごとをフェリーが解決する部分などを全面的にPRする必要があります。せっかくの良いものを修旅で活用出来ることを知らない先生方や旅行 AGT が多いと思いますので、港のコンテンツと併せて苫小牧港を広くPRすることが重要だと感じました。
- ・まずはフェリーを体験していただく機会を増やす事が重要と考えますので、体験会は継続して下さい。

VII 今後の取組

【課題：アンケート結果を踏まえた主な課題】

- ・フェリー未体験者（教員、保護者、行政等）に対するアプローチ
- ・フェリーを利用することによる旅行日数の増加
- ・復路利用を想定した場合の東北地域における学びのコンテンツの開発
- ・フェリー利用に切り換える場合の保護者への説明
- ・教員と旅行会社のフェリーを利用した修学旅行のノウハウ不足
- ・生徒が参加する場合の安全に配慮した施設見学方法
- ・施設見学時の説明方法
- ・受入れ体制の確立
- ・プログラムのクオリティ向上
- ・プログラム内容と修学旅行の関連性の向上

【課題解消プラン】

- ・教員、保護者、行政機関等を対象としたファミトリップの継続実施
- ・2泊3日に対応したフェリー利用の修学旅行の造成
- ・修学旅行におけるニーズの把握（学びの質、訪問先等）のため、道内各地でマーケティングを実施
- ・東北運輸局等と連携した学びのコンテンツの開発
- ・学校、保護者へのアプローチに際し、フェリー利用における明確な教育効果等の説明
- ・関係事業者等と連携し生徒受入れを想定した安全対策の検討
- ・関係事業者等と連携した運営方法の検討
- ・関係者と連携した受入れ体制の構築
- ・フェリー会社による一般市民を含めた誘客のための新たなアプローチ方法の検討

【今後の取組】

令和6年度の修学旅行の受入れを目指し、関係者と連携して主な課題として整理した内容等について改善を図ることとする。

施設見学や講話に関しては、キャリア教育やSDGsの視点による活用の可能性が指摘されており、アンケートでは「市内教頭会や校内研修等で今回の体験会の成果を情報提供していきたい。」等の意見があることから、参加された教育関係者等とも連携し、新たなセールスポイントとなる多彩なプログラム開発の検討を進める。

参加した旅行会社においては、教育関係者に対し、このプログラムを活用した令和5年度の修学旅行の提案が行われていることから、教育旅行を扱う北海道内の旅行会社等に対し取組プログラムについて周知し、修学旅行の誘致を促進する。

また、北海道内と東北地域の観光関係者等と広く連携し、北海道外からの誘客を目指した取組へと発展させる方策の検討を進める。

VIII まとめ

本事業における令和3年度の取組は、フェリー関係者や海事・物流事業者及び団体等と連携し、旅客フェリーの利用促進と海事・物流産業の重要性等の理解醸成を図ることを目的に、これら産業の学びに役立つ学習プログラムの提供をキラーコンテンツとして、北海道内の教育関係者と旅行会社を招請する「フェリーを利用する修学旅行体験会」を実施し、フェリーを利用する修学旅行の実用性のPR等を行いました。

アンケートでは多くの課題が確認されていますが、他方で、学習プログラムとして提案した施設見学等に対して、教育関係者からキャリア教育やSDGsの視点で期待以上の内容であった等のコメントがあり、旅行会社からは、修学旅行ではSDGsとの絡みが期待されているが、上手く結び付ければ良い提案になるという期待感を持てた等、今後の取組に自信と確信がもてるコメントをいただきました。

苫小牧海事事務所では、地域の産業を学ぶことで教育の充実化が図られ、社会性の高い教育が提供されるものと考え、中長期の視点に立って関係機関と連携し、今後も新しい学習指導要領に基づきながら教育旅行を中心に学習プログラムを提供し、旅客フェリー事業の活性化と海事・物流産業の重要性等の理解醸成を図ることとしていますので、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続する中、本事業にご協力いただいた教育関係者や旅行会社の皆さまと、ご多忙の中ご対応いただいた海事・物流企業及び団体等の方々に改めて深く感謝申し上げます。



【問い合わせ先】
国土交通省北海道運輸局
苫小牧海事事務所 所長 奥田
電話：0144-32-5901
E-mail：okuda-s524b@mlit.go.jp

【参考資料】

【プレス資料】

国土交通省

北海道運輸局

Hokkaido District Transport Bureau

Press Release

令和3年10月15日

同時発表：北海道・運輸航空記者クラブ、苫小牧市政記者クラブ

修学旅行に新たな学びのスタイルを提案します

～ 「フェリーの利用促進」「海事・物流産業の人材確保・育成」を目指して ～

北海道運輸局苫小牧海事事務所では、旅客フェリー事業の活性化と海事・物流産業の重要性等の理解醸成を図るため、10月30日（土）から11月1日（月）にかけて、中学校の先生と旅行会社を招請し、海事・物流施設見学等の学習プログラムを組み込んだ修学旅行体験会を開催します。

1. 背景

- 北海道内の中・長距離フェリーの旅客利用者数は、1994年をピークに減少し、新型コロナウイルス禍にあっては旅客利用者が激減している。
- 海事・物流産業にあっては、少子高齢化の中、人材確保・育成が重要な課題となっている。

2. 体験会の目的

- フェリーを利用する修学旅行の実用性のPRを北海道内の中学校をターゲットに行う。
- 提供する学習プログラムの内容やクオリティー等の検証を行い、フェリーを利用する修学旅行の誘客につながるよう取り組む。

3. スケジュール

実施日：令和3年10月30日（土）～11月1日（月）
参加者：8名（教育関係者5名、旅行会社3名）
行程：苫小牧～宮城県、岩手県 ※詳細は「別紙」参照。

■主な学習プログラム

施設見学等：RORO船*内、一般貨物船、物流倉庫内、内航コンテナ荷役、荷役機械乗車体験 など
特別授業：講話「大阪府立大学名誉教授 池田良穂 氏、水先人、太平洋フェリー「きたかみ」船長」
仕事のお話：タグボート、通関士、海運代理店業務 など *RORO船：船の前後のランプウェイからトラック

被災地訪問：東北大震災被災地を訪問し追体験等



乗船予定：太平洋フェリー「きたかみ」

やトレーラー等によって直接貨物を積み卸すロールオン/ロールオフ方式の貨物船

4. 事業主体等

主催：北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所、太平洋フェリー(株)北海道支店
協力：苫小牧栗林運輸(株)、苫小牧港開発(株)、協同組合苫小牧タグセンター、苫小牧地区倉庫協会、苫小牧水先区水先人会、ナラサキスタックス(株)、(株)フジトランスコーポレーション、北海道海事広報協会、室蘭地区トラック協会苫小牧支部（五十音順）

※取材を希望される場合は、前日の午前中までにご連絡をお願いします。
新型コロナウイルス感染症対策のためマスクの着用、手指消毒等の徹底をお願いします。
【お問い合わせ先】 北海道運輸局 室蘭運輸支局 苫小牧海事事務所
電話：0144-32-5901 担当：奥田、石岡

TOTAL SCHEDULE

別紙

2021年10月30日(土)

2021年11月1日(月)

3 DAYS SCHEDULE

「フェリーを利用する修学旅行体験会」

国土交通省北海道運輸局苫小牧海事事務所

1日目	2日目	3日目
10月30日(土)	10月31日(日)	11月1日(月)
<p>10:00 オリエンテーション (苫小牧西港ターミナル)</p> <p>10:25 RORO船内見学 (自動車運搬船)</p> <p>11:15 一般貨物船見学 (鋼材船)</p> <p>11:35 物流倉庫見学</p> <p>12:35 昼食</p> <p>14:20 内航コンテナ見学、トラック 輸送見学、荷役機械乗車体験</p> <p>15:50 特別授業 ・水先人のお話 ・フェリー「きたかみ」船長のお話</p> <p>16:50 「船酔い防止」のお話 ・大阪府立大学 名誉教授 池田 良穂 氏</p> <p>17:10 フェリー荷役見学</p> <p>18:30 夕食 (船内レストラン)</p> <p>19:00 苫小牧港出港</p> <p>※上記の他、移動バス車内において「海の 仕事(タグボート業務、通関士業 務)」の講話を実施</p>	<p>10:00 仙台港着</p> <p>10:30 特別授業(講話) ・大阪府立大学 名誉教授 池田 良穂 氏</p> <p>12:00 昼食</p> <p>13:20 荒浜小学校 (震災遺構見学)</p> <p>15:00 松島見学 (瑞巖寺見学)</p> <p>17:00 女川町視察 (被災地見学)</p> <p>19:15 ホテル着</p>	<p>8:00 ホテル発</p> <p>10:00 平泉見学 (中尊寺、毛越寺) (昼食) (平泉文化遺産センター)</p> <p>17:05 仙台空港発</p> <p>18:15 新千歳空港着 (一部解散)</p> <p>19:00 苫小牧西港ターミナル (解散)</p>

(※) 新型コロナウイルス感染症や気象状況により、「変更」「中止」となる場合があります。

北海道と国内各地の結びつきの学習

- 国内の港から（へ）貨物を運ぶ船などを見学し、北海道と国内各地との結びつきの理解を深めます。
- 参加者自身の日常生活と海事・物流産業の関わりを学びます。



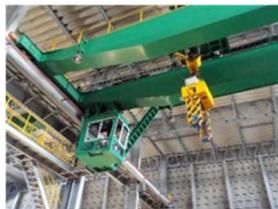
自動車を運転したまま船内に積み込み、積み卸し、国内の港から（へ）貨物を運ぶ船の内部の見学を実施



海上コンテナを積み上げ、積み卸しする荷役の見学、使用する荷役機械の乗車体験、コンテナの中身見学等を実施

生産と消費を結ぶ物流倉庫の役割の学習

- 倉庫に前後する貨物の輸送と併せて学ぶことで、モノの流れとこれら産業の役割や重要性について学び、海事・物流産業に対する理解を深めます。



どのようなモノがどのように保管されているか、保管されているモノが日常生活にどのように関わっているかを学ぶ倉庫施設見学を実施

海事産業関係者の講話による学習

- 私たちの生活と海事・物流産業との関わりや、これら産業の役割と重要性について学び、海事・物流産業に対する理解を深めます。



船を動かす船員の仕事、船が動くために必要なサポートの仕事（水先人、曳船の仕事）などの講話を実施



物流企業の社員から貨物の流れについての講話を実施

被災地での追体験による震災学習

- 自然災害や防災の取組の学びをベースに「いのち」の尊さ、人への思いやり、支えあうことの大切さを学びます。



多くの犠牲者を出した大川小学校の様子を知る

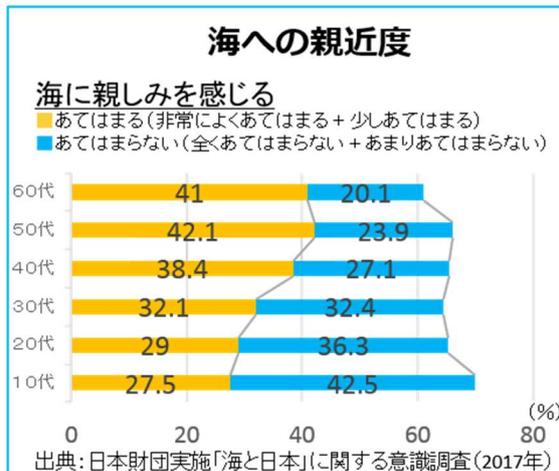


語り部ガイドの案内により被災時の状況を知る

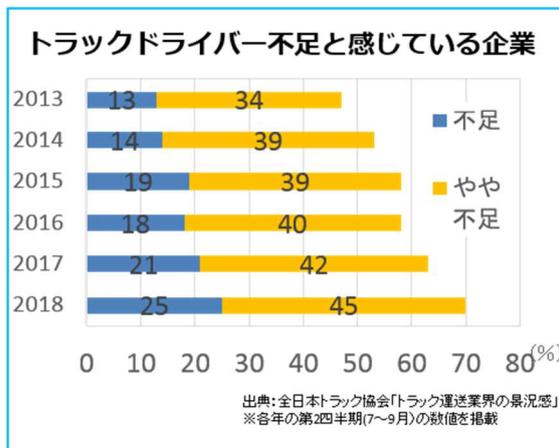
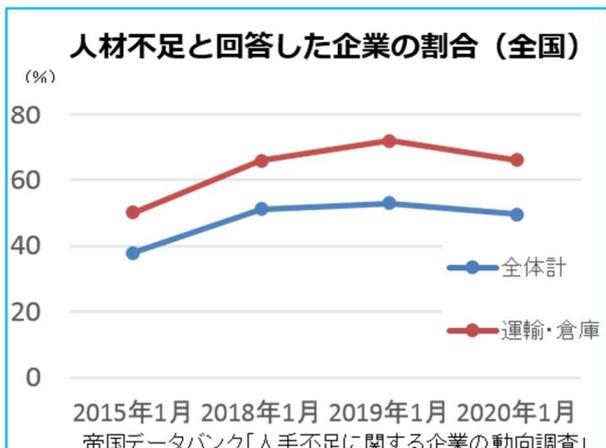
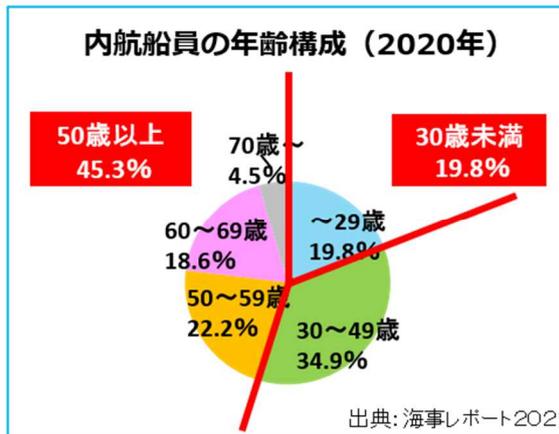
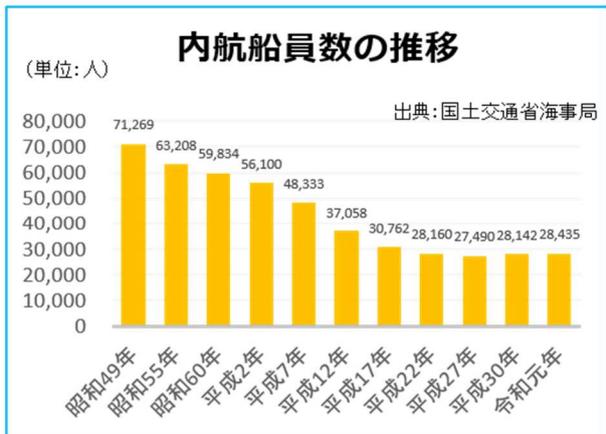
フェリー旅客輸送実績



海への親近度



海事・物流産業の人材不足の状況



「フェリーを利用する修学旅行体験会」の注意事項

○注意事項

1. 10月30日（土）は午前10時から体験会を開始いたしますが、その前段で名刺交換等を行います。そのため、集合場所（苫小牧西港フェリーターミナル1階会議室）へは、午前9時45分までに名刺持参の上お集まりください。
2. お車でお越しの際は、苫小牧西港フェリーターミナル北側第2駐車場をご利用ください。駐車場利用料は無料となりますので受付時にお申し出ください。
3. 新型コロナウイルスの感染状況や気象海象等により、体験会の中止又は見学施設が変更となる場合があります。
4. 悪天候等（フェリー欠航等）で体験会を中止する場合は、登録済の携帯電話番号に当日の午前8時までにご連絡しますので、携帯電話は繋がる状態とするようお願いいたします。
5. 1日目（10月30日）は現場見学がありますので、動きやすい服装及び履き物でご参加ください。ハイヒールやサンダルは危険が伴いますのでご遠慮ください。
6. 雨具対策（傘・合羽等）をしてご参加願います。
7. 屋外での施設見学もありますので、防寒対策をお願い致します。
8. 見学場所でのヘルメットは主催者側でご用意いたします。
9. 見学施設内には危険箇所もございますので、案内者の指示に従って見学してください。
10. 持ち物は各自で管理してください。
11. 体験会での傷害保険および旅行保険は主催者側で加入致します。
12. 体験会参加中は新型コロナウイルス感染防止対策にご協力願います。
13. 船酔いするおそれのある方は、各自予防対策を講じて参加してください。
14. 体験会で撮影した写真は主催者の広報等で使用する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
15. 10月30日（土）に実施する「船内・物流倉庫・コンテナ貨物の施設見学」の動画および写真撮影はご遠慮ください。
16. 見学会当日はマスクミ取材があります。あらかじめご了承ください。
17. 体験会への参加が困難となった場合は、必ず苫小牧海事事務所までご連絡ください。
 - ・体験会の前日までの連絡先
北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所
電話：0144-32-5901
 - ・体験会当日の連絡先
奥田：090-9437-2396
柳原：090-9754-6763
山内：080-1174-6069
18. いただいた個人情報は、本体験会に関する目的にのみ使用します。

2021年10月

北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所

【新型コロナウイルス感染防止対策－1】

「フェリーを利用する修学旅行体験会」の新型コロナウイルス感染防止対策

この度は「フェリーを利用する修学旅行体験会」へのご参加大変ありがとうございます。

政府は、これまでの国内外の様々な研究等の知見を踏まえ、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着や「感染リスクが高まる「5つの場面」」の回避等を促すとともに、事業者等に対しては業種別のガイドライン等の実践を促しております。

これらを踏まえ当体験会の実施に際しましては、参加者の皆さまが安心してご参加いただけるよう、新型コロナウイルス感染防止対策と災害防止対策を徹底いたします。

取り分け新型コロナウイルス感染防止対策につきましては、感染しない・させない対策として、「三密回避」「マスク着用」「手指消毒の励行」等の基本的な感染対策を中心に、次の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して参りますのでご協力をお願い申し上げます。

○感染防止対策

1. 体験会の期間をとおして参加者とスタッフの体調確認を実施します。
2. 3密（密閉、密集、密接）回避に配慮した体験会を実施します。
3. マスク着用等による飛沫感染予防と手指消毒の励行等による接触感染に配慮した体験会を実施します。
4. 行程上で利用する施設、運輸機関は、感染防止対策が徹底されていることを事前調査し利用します。
5. 体験会では、「感染リスクが高まる5つの場面」を想定した対策を実施します。

○具体的な感染防止対策

1. 参加者は、体験会実施の14日前から毎日検温等を行い、その結果を健康等確認シート（別紙1）に記載し体調管理を徹底します。
体調不良や濃厚接触の疑いがある場合は参加をお断りします。
2. 体験会の期間中、毎朝、健康確認シート（別紙2）の提出と出発前の検温により健康確認を徹底します。
3. 体験会にあっては、次の基本的な感染対策（3密の回避、マスクの着用、手洗い等の手指衛生確保）の徹底に努めます。
 - (1) 換気対策の徹底。
 - (2) ソーシャルディスタンスの確保の徹底。
 - (3) 説明時等の十分な距離の確保。
 - (4) マスク着用の徹底。
 - (5) バスの乗降口に消毒液を設置し機会あるごとに十分な手指消毒を徹底。

2021年10月

北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所

【新型コロナウイルス感染防止対策－２】

新型コロナウイルス感染防止対策へのご協力のお願い

「フェリーを利用する修学旅行体験会」へのご参加にあたり、次の新型コロナウイルス感染防止対策にご協力ください。

○事前の対策

1. 当体験会参加の前後を含め、感染リスクの高まる「５つの場面」を避け、感染対策を徹底してください。
2. 事前に健康等確認シート（別紙１）を送付しますので、体験会開催の１４日前から発熱、呼吸困難、せき、のどの痛み、息苦しさ、胸の痛み、倦怠感、味覚・臭覚異常の症状や、海外渡航歴、新型コロナウイルス感染または濃厚接触の疑いについての記載をお願いします。発熱や感染が疑われる症状等がある場合には、体験会への参加をご遠慮いただきますので、３７．５度以上の発熱や健康等確認シートの設問に該当が判明次第、苫小牧海事事務所までご連絡ください。
3. マスク、除菌シート、うがい薬等の感染防止用品をご持参ください。

○体験会実施中の対策

- ・毎日の集合時および出発前に検温を実施します。
- ・毎朝、各自で健康確認シート（別紙２）による健康チェックを行っていただき、その結果をご提出いただきます。
- ・体験会参加中は、食事前後の会話時も含め常にマスクの着用をお願いします。
- ・入場施設側でアルコール消毒液等を準備している場合には、入場（室）時だけではなく、退場（室）時にも手指消毒を行ってください。
- ・バス乗降口に消毒液を準備しておりますので、機会あるごとに手指消毒を行ってください。
- ・バス車内での飲食は禁止いたします。
- ・食事会場では食事中以外はマスクを着用し、大声での会話は控えてください。
- ・利用運輸機関や利用施設で検温や健康確認が実施される場合はご協力ください。

○体験会実施後の対応

- ・体験会終了後１４日以内に新型コロナウイルスに感染された場合は、必ず苫小牧海事事務所までご連絡ください。

■連絡先

苫小牧市港町１丁目６番１５号 苫小牧港湾合同庁舎
北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所
電話 ０１４４－３２－５９０１
担当 奥田、柳原、山内

【新型コロナウイルス感染防止対策－3】

利用交通機関等の主な新型コロナウイルス感染防止対策

【1. 樽前観光サービス（苫小牧市内の施設見学等の移動に利用する貸切バス）】

・貸切バスにおける新型コロナウイルス対応ガイドラインの徹底

○乗務員対応

- ・接客時のマスク着用
- ・乗務員の手洗い・体調管理チェック

○車内対策

- ・アルコール消毒液の車内設置
- ・マイクの徹底消毒
- ・車内換気と清掃・除菌の徹底
- ・乗務員とのソーシャルディスタンスの確保のためアクリル板の隔壁を設置

【2. 太平洋フェリー（苫小牧から仙台への移動に利用するフェリー）】

・旅客船事業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインの徹底

○旅客対策

- ・旅客の乗船前に検温を実施
- ・健康確認シートによる健康管理のチェック

○フェリーターミナルでの対策

- ・フェリーターミナルカウンターに飛沫防止の仕切りを設置

○船内対策

- ・全船に抗菌・抗ウイルスフィルターを導入
- ・毎航海ごとに船内の手すり・ドアノブ等を次亜塩素酸を使用した消毒の実施
- ・飛沫感染を防止するため、船内各所のカウンターに仕切りを設置
- ・感染症対策を強化した上で、バイキング形式でのレストラン営業

※バイキングの営業について

- ・バイキングテーブル、キャッシャー第等に飛沫防止シートを設置
- ・トンゴの交換頻度を上げた対応
- ・密集・密接を防ぐため、座席数を制限
- ・キャッシュトレイ上での会計
- ・利用者には、マスク着用、手指消毒、手袋着用の協力を依頼

【3. 仙塩交通（宮城・岩手両県内の見学等の移動に利用する貸切バス）】

・貸切バスにおける新型コロナウイルス対応ガイドラインの徹底

○乗務員対応

- ・乗務員の乗務中のマスク着用
- ・乗務員の手洗い・うがいの徹底
- ・乗務員の就業前のチェックポイント（体温測定）の確認

○バス車両での対策

- ・車内清掃・換気の徹底
- ・車両運行終了後、アルコール消毒液を使い、手すりや座席、乗客が触れる場所を重点的に除菌清掃

○お客様へのお願い

- ・マスクの着用をお願いします
- ・会話を控えるようお願いします
- ・なるべく間隔を空けご乗車下さい

【4. ホテルグランバツハ仙台（10月31日に宿泊利用するホテル）】

・宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドラインの徹底

○スタッフ対策

- ・手洗い・うがい・マスク着用
- ・定期検温を実施
- ・お客様との距離を意識した接客

○除菌対応

- ・定期的な館内（料飲エリア）の除菌清掃
- ・定期的な館内共用部分の除菌清掃
- ・客室の除菌清掃
- ・客室スリッパの使い捨て利用

○換気対応

- ・定期的な館内（料飲エリア）の換気
- ・定期的な館内共用部分の換気

○チェックイン・アウト対応

- ・お客様同士の距離を意識した整列・誘導
- ・フロントにアクリル板設置等で飛沫予防

○客室対応

- ・消毒液の設置
- ・空気清浄機の設置
- ・備品を都度、除菌清掃

○食事対応

- ・提供・配膳方法を工夫（個別配膳等）
- ・会場の混雑状況の管理と分散化
- ・体調不良のお客様の入場制限

○お風呂場対応

- ・消毒液の設置
- ・浴場内備品の除菌清掃
- ・浴場の混雑状況の管理と分散化

○宿泊者へのお願い

- ・来館時の消毒のお願い
- ・手洗い・うがいのお願い
- ・客室の外でのマスク着用をお願い
- ・チェックイン時の検温のお願い

○緊急時対応準備

- ・緊急時対応のマニュアルを整備
- ・緊急時対応の定期的なスタッフ教育

○ほか当館独自の対策

「ロビーラウンジ営業時間変更」のお知らせ

【新型コロナウイルス感染防止対策－４】

体験会行程（宮城県・岩手県）において発熱等の症状がある場合の医療機関受診について

宮城県及び岩手県では、発熱等の症状が生じた場合には、まずはかかりつけ医等に相談することとされていますが、かかりつけ医がいない方や相談する医療機関に迷う場合等は、それぞれ下記の「受診・相談センター」（コールセンター、土日・祝日含む 24 時間受付）で診療・検査できる医療機関の紹介を行っています。

宮城県受診・相談センター 022-398-9211

岩手県受診・相談センター 019-651-3175

なお、仙台市内の宿泊先（ホテルグランバツハ仙台、仙台市宮城野区榴ヶ岡三丁目7-33）の近隣地域では、以下の診療所で発熱外来設置または発熱等の症状に対応可能ですが（徒歩10～30分程度）、受け入れ態勢等詳細不明のため、上記、「受診・相談センター」へ相談の上、適切な医療機関の紹介を受けて受診することを優先すべきと思われます。

てっぽう町かず内科：仙台市宮城野区鉄砲町東3-16、TEL022-355-4183

※発熱外来：月火木金 11:00～11:30（予約制）

木下内科クリニック：仙台市宮城野区原町2-4-43、TEL022-257-0505

※発熱等のある場合は事前予約：平日 9:00～12:00、14:00～17:30

青葉通り一番町内科クリニック：仙台市青葉区一番町2-4-19、TEL022-302-7025

※発熱等のある場合は事前予約：平日 10:00～13:00、15:00～20:00

以 上

【新型コロナウイルス感染防止対策－5】

【別紙1】

健康等確認シート

確認期間：令和3年10月16日（土）～10月30日（土）

所 属 _____

氏 名 _____

1. 健康状況（検温をお願いします。また、新型コロナウイルス感染症を疑う症状があれば「○」でお囲み下さい。）

確認期間		検温	新型コロナウイルス感染症への感染を疑う症状
10月16日	土	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月17日	日	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月18日	月	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月19日	火	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月20日	水	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月21日	木	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月22日	金	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月23日	土	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月24日	日	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月25日	月	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月26日	火	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月27日	水	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月28日	木	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月29日	金	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常
10月30日	土	℃	発熱・呼吸困難・せき・のどの痛み・息苦しさ・胸の痛み・倦怠感・味覚異常・臭覚異常

37. 5℃以上の発熱や新型コロナウイルス感染症を疑う症状が確認された場合は、参加見送りとさせていただきますのでご了承下さい。

上記症状や濃厚接触者の疑いが判明した場合は、苫小牧海事事務所（0144-32-5901）までご連絡下さい。

2. 海外渡航歴（確認期間中における海外渡航歴がありましたら、渡航期間及び渡航先をご記入下さい。）

--

3. 新型コロナウイルス感染状況（確認期間中における感染又は濃厚接触が確認された場合、経緯をご記入下さい。）

--

（※）ご記入ありがとうございました。

当該シートは、体験会初日に回収いたしますので、印刷のうえご持参下さい。